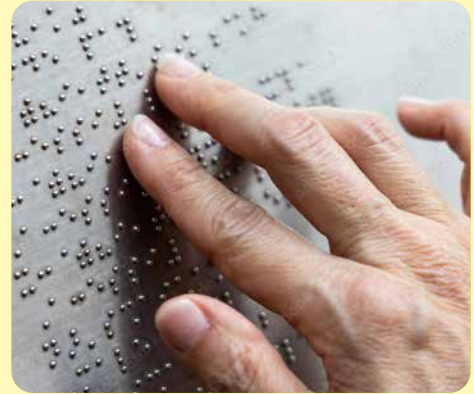


声や文字だけじゃない、伝え方のひろがり

障害のある人の特性や感じ方は一人ひとり異なり、それに応じたコミュニケーションの工夫があります。ここでは、その一部をご紹介します。

点字

指先で触れて読む、6つの点の組み合わせで表現された文字。縦3点、横2列の6つの点を1単位（マス）として、凸点の組み合わせで五十音や数字、アルファベット、記号を表します。点字器や点字タイプライターで打ち出すほか、点字プリンターとパソコンの併用や点字ディスプレイに文字を出力し、それを読み取る方法もあります。



点字ディスプレイ

スマートフォンやパソコンと連動して画面上の文字情報を点字で表示したり、図で表示したりする機器のことです。

スクリーンリーダー

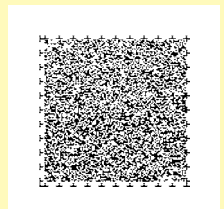
スマートフォンやパソコンと連動して、画面の表示内容やユーザーの操作内容などを音声で読み上げるソフトウェアのことです。

拡大文字

弱視の人が読めるように、サイズを大きく表示した文字。行間や書体、字の太さにも配慮が必要です。

画面拡大ソフト、拡大読書機、音声読書器

印刷物や写真などをカメラやスキャナーで読み取り、拡大して表示したり、色を反転したり、背景と文字色のコントラストを調整することができます。また、読み取った文書を合成音声で読み上げる機器やアプリもあります。



声や文字だけじゃない、伝え方のひろがり

色の配慮

印刷物は、背景色と文字色の明るさに十分な差をつけることで、内容を認識しやすくなります。重要な情報を示す際は、色だけに頼らず、文字・記号・形・線の種類などを組み合わせて表現します。

音声コード

小さな白黒の点の組み合わせで構成される二次元コードをスマートフォンなどで読み取ることで、紙媒体に書かれた文字情報の収録内容を音声で聞くことができます。

代読・代筆

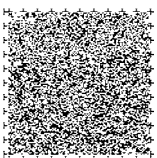
視覚障害のある人や構音障害、肢体不自由のある人に代わって読み上げたり、書いたりする方法です。代読する際は、正しい発音、アクセント、聞きやすい速度で読むことが大切です。

音訳

視覚障害のある人や読書困難者のために、本、雑誌、図表などの墨字（活字）情報を、肉声で忠実に音声化して提供する活動や技術です。

手話

手や顔の表情、身体の動きを使って表現・理解する言語の一種です。



遠隔手話

手話通訳者と対面せず、スマートフォンやタブレットのビデオ通話機能を使って、遠隔地からリアルタイムに通訳を行うシステムです。自治体の窓口、病院、災害時など、手話通訳者が同行できない場面でも活用されており、文字チャットや外国語対応を行うサービスも普及しています。

筆談

紙と筆記具、タブレット端末などの筆談具を利用して、音の代わりに文字でコミュニケーションする方法です。スマートフォン画面で文字を伝えたり、空中に文字を書いて伝える「空書」という方法もあります。

要約筆記

話された内容を要約し、紙やパソコン上に文字で書き表して伝える方法です。

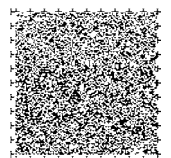
音声の文字化

音声認識技術を使って、会話をリアルタイムで文字化する方法です。通話相手の声を文字にして伝えるスマートフォンアプリなどにも活用されています。



電話リレーサービス

聴覚や発話に困難のある人と、きこえる人との会話を通訳オペレーターが手話、または文字、音声で通訳することにより、電話で即時に双方向につながることができるサービスです。



声や文字だけじゃない、伝え方のひろがり

読話・口話

読話は、話し手の唇の動きや表情から状況を推測して話の内容を読み取る方法です。読話で理解し、訓練により音声で話せる方法を口話といいます。

手書き文字

受け手側の手のひらに指先などで1文字ずつ文字を書いて言葉を伝える方法です。受け手の人の指をとり、机や手のひらの上に書いていく方法もあります。

触手話

発信する側が手話を表し、盲ろう者がその手に触れて手話の内容を読み取る方法です。発信する側が盲ろう者の手指をとり、手話を形づくっていく方法もあります。



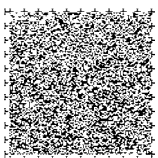
指点字

受け手側の手に、発信する側の手を上から重ね、左右の人差し指・中指・薬指の6指を点字の6つの点に見立てて、相手の指に軽く触れることで文字を伝える方法です。



わかりやすい表現

「あそこ」「ちゃんと」などの曖昧な表現や抽象的な表現は使わず、できるだけ具体的に説明します。また、短い文章で簡潔に表現します。相手が理解できるまで、ゆっくり、ていねいに、必要に応じ繰り返し説明することも大切です。



身振り手振り(ジェスチャー)・表情

身振り手振り(ジェスチャー)や表情も、コミュニケーションにおける重要な手段のひとつです。聴覚障害、発達障害、知的障害など、障害の特性に合わせて身振り手振りや表情を活用することで、意思疎通がスムーズになります。

実物/絵図

実物や絵、写真など視覚的にわかりやすい情報を利用し、ゆっくり説明します。

コミュニケーションボード

絵や記号、簡単な図を使って説明や意思表示などのやりとりができるようにするものです。

文字盤・シンボルボード

紙やプラスチックなどに記載された文字や絵、記号を指差したり、視線の動きや頷きなどによって意思表示を行う方法です。透明なアクリル板を用いた「透明文字盤」や、基本的なニーズや気持ちを絵で表現した「シンボルカード」などがあります。

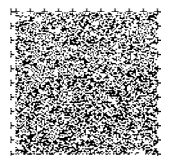


携帯用会話補助装置

文字盤の文字キーを押すことで文章を入力・作成し、入力された文章を音声で再生することもできる装置。

重度障害者用意思伝達装置

スイッチ操作や視線入力、脳波などの生体信号を使って微細な動きで、文字入力や音声出力、機器操作などを可能にする装置です。



声や文字だけじゃない、伝え方のひろがり

さまざまな補助犬

身体障害者補助犬は、特別な訓練を受け、目や耳、手足に障害のある人のお手伝いをする大切なパートナーです。国が指定した法人で訓練を受け、認定を受けています。

盲導犬

視覚障害のある人と一緒に歩き、交差点や段差、障害物や車の接近を知らせるなど、安全な移動をサポートします。体に、白色または黄色のハーネス(胴輪)をつけています。



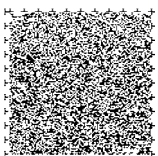
介助犬

ものを拾ったり、ドアの開閉をするなど、肢体不自由のある人の日常生活動作をサポートします。外出時には「介助犬」と書かれた胴着をつけています。



聴導犬

聴覚障害のある人に、アラームや電話の呼び出し音など、日常生活での必要な音を知らせ、音源まで誘導します。外出時には「聴導犬」と書かれた胴着をつけています。



災害・緊急時の情報収集・意思疎通

地震や洪水などの自然災害や、日常生活における交通事故、公共交通機関の事故・遅延、火災などの突然の緊急事態に直面した際、障害のある人は情報収集や避難などにおいて大きな困難が生じます。そのようなときに、障害のある方々にとって有効となりうる方法の一例をご紹介します。事前登録が必要なものも多く、日頃から災害に備え準備をしておくことが重要です。

スマートフォン・タブレットを活用した情報収集

視覚障害のある人に向けて、災害・緊急時の避難に関する情報を提供しているさまざまなスマートフォンアプリがあります。災害に関する情報を音声で読み上げたり、最寄りの避難所までのルートを音声案内をするなどの機能が備わっています。

スマートフォン・タブレットを活用した緊急通報

聴覚障害や構音障害など、音声でのコミュニケーションが困難な人に向けて、スマートフォンやタブレットの画面入力から110番や119番に通報ができるシステムがあります(事前登録が必要)。

スマートフォン・タブレットを活用した意思表示、コミュニケーション

聴覚障害や構音障害など音声でのコミュニケーションが困難な人が、避難所などで自身に障害があることを周囲に伝えたり、必要な支援を要請したりする際には、筆談が有効です。加えて、スマートフォンやタブレットの画面上で示し、相手に言葉を伝えることもできます。

